

図書だより

9月

志布志高等学校図書館

令和元年9月24日発行

学校行事の中でも大きなイベントである体育祭が
終わって、図書室には受験の前準備に来館する3年
生の姿がみられる時期となりました。受験、または
部活動の新人戦前のちょっとした休憩に、何か一冊
読んでみませんか。

今月の新刊本から

月まで三キロ

伊予原新 著, 新潮社

「月は1年に3.8センチ
ずつ、地球から離れていって
るんですよ」死に場所を探し
てタクシーに乗った男を、運
転手は山奥へと誘う。表題作
をはじめ、折れそうな心に
寄り添う、全6話を収録。

大家さんと僕 これから

矢部太郎 著, 新潮社



季節はめぐり、楽しかった
々に見えてきた少しの翳り
別れが近づくなか僕は…。
一風変わった大家さんとの
“2人暮らし”を描いた、お
笑い芸人「カラテカ」矢部
太郎のほっこりあたたかな
コミックエッセイ完結編。
前作の「大家さんと僕」で
手塚治虫文化賞短編賞を受
賞されました。



見るだけで語彙が増える 英単語の語源図鑑

清水建二 著, すずきひろし 著
かんき出版

100の語源で10000語が身につく!
語源を手がかりに単語を関連づけて覚えら
れる英単語集。1単語ごとに、語源が持つ意味
の直感的な理解を促すイラストを付し、関連語
句や例文を掲載する。

★ケルトを旅する52章

永田喜文 著, 明石書店

★クジラアタマの王様

伊坂幸太郎 著, NHK出版

★神さまのいる書店 三萩せんや 著

KADOKAWA

★マジカルグランマ 柚木麻子 著

朝日新聞出版

★蒼色の大地 薬丸岳 著

中央公論新社



いくつ知ってる? 秋の季語

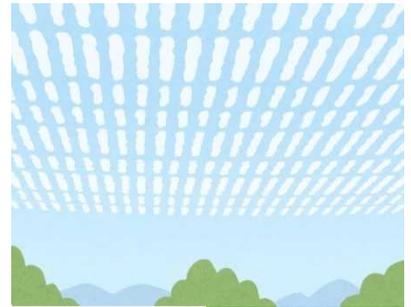


季語をひとことで表すと「季節感が感じられることば」です。
2019年の立秋は8月8日、暦の上では既に秋の季節となりました。暮らしに季節感をもたらす秋の季語、皆さんはいくつ知っているでしょうか。

名月 ~めいげつ~



陰暦8月15日の「中秋名月」をいい、一年で最も美しい月とされています。その明るさから「明月」とも書きます。



鱗雲 ~いわぐも~

晴れた秋の空に、小さな白雲が規則正しく連なって、魚の鱗のように美しい模様をつくります。これを鱗(いわし)の群れに見立てて「鱗雲」といいます。「鱗雲(うろこぐも)」「羊雲」, 気象学上は「巻積雲(まきせきうん)」とも呼ばれ、この雲を見つけると秋だとしみじみ感じることができるでしょう。

花野 ~はなの~

人の手に依らず咲く秋の様々な草花が咲き満ちた野を「花野」といいます。



野分 ~のわき~



秋の暴風のことをいい、草花の生い茂った野を吹き分けるほどに吹くため、「野分」の名が与えられました。これは主に台風のことです。

現在では気象庁などが発表する台風情報で、接近や進路を事前に知ることができますが、いにしえの人々にとっては突然吹きすさび、草木をなぎ倒す「野分」に見舞われた様子は見るも無残で、「あはれ」を感じていたのでしょう。